

学校関係者評価 新居浜市立泉川中学校

1 学校関係者評議委員

- ・ 篠原 茂 氏 (学校運営協議会会長)
- ・ 真鍋 智明 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 石川 武博 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 梶本 香織 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 太田 初 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 柴田 雅昭 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 宮崎 達也 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 藤澤 俊洋 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 高橋 美鈴 氏 (学校運営協議会副会長)
- ・ 秦 典生 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 原 寿也 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 山中 俊子 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 山内 光男 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 古河 貴司 氏 (学校運営協議会委員)
- ・ 宇野 公章 氏 (学校運営協議会委員)

2 学校関係者評価結果 (令和3年1月25日実施)

(1) 学校からの報告

ア 成 果

ほとんどの項目で3ポイント以上の評価が得られている。新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年と同様な活動を行うことが難しく、見直しや短縮を図ることが多かった。そのような中で、PTA役員をはじめとする保護者や地域の方々の応援や協力を得ながら、安全かつ充実した教育活動を目指して励んできた。本年度は環境教育指定校として2年目となり、総合的な学習の時間や「大好き泉川の日」の活動がより充実するように地域の方に協力していただきながら改善を図った。その結果、生徒たちの環境美化や地域のボランティア活動に対する意識が向上し、「大好き泉川の日」への参加者が増加した。また、生徒会活動でも、環境に配慮したごみの回収の方法やより多くの資源の回収につながる呼び掛けを提案する姿も見られた。そして、地域と連携した取組の継続が進展し、授業に地域の方を講師として招聘した「のこぎり先生」の活動も行うことができた。

- ・ 保護者の結果を見ると、「生徒は地域の一員としてESDやボランティア等に進んで参加することができていますか。」の項目のポイントが昨年度よりも0.6ポイント向上している。これは、環境美化やボランティアに対する生徒の意識の向上を多くの保護者が感じられているのではないかと考える。
- ・ 教職員の結果では、「生徒のあいさつは、良くできていると思いますか。」のポイントが0.3ポイント向上した。生徒会で「こんにちは」のあいさつを呼び掛けたことによって、校内で「こんにちは」のあいさつが当たり前になり飛び交うようになったという意見も聞かれ、生徒自らがあいさつにより学校を明るくしようと取り組んだ成果を感じられた結果だと考える。
- ・ 生徒の回答はすべての項目で3.0ポイント以上となっている。このコロナ禍の中、「充実した学校生活が送れている」や「生徒会活動や学校行事は充実している」の項目のポイントが向上しているのは、生徒が主体的に活動に取り組み、達成感や充実感を味わえたからであると考えられる。

イ 課 題

ほとんどの項目で前年よりもポイントがアップするか、変わらずに高い状態であるものの、中にはダウンしている項目もあり、再検討していきたい。

- ・ 「生徒の学力は向上している」については、生徒・保護者のポイントは昨年と同様であるが、教職員のポイントは昨年度よりも0.7ポイント下降している。これは新型コロナウイルス感染症予防対策で休業していた間に、基礎学力や学習意欲の低下が見られた生徒がいたことが影響したのではと考えられる。今後は、国が進めるGIGAスクール構想への移行を進めるとともに、家庭学習の在り方や学力向上に向けての授業改善に教職員一丸となって取り組んでいきたい。
- ・ 「生徒会活動や学校行事は充実しているか」の項目の保護者のポイントと「部活動は充実しているか」の生徒のポイントが昨年度よりも若干下降している。卒業式や体育大会が短縮されたり、市総体やコンクールが中止になったりし、昨年度よりも生徒の活躍を見る場や積み上げてきた練習の成果を発揮する場がなくなったことも影響していると感じる。今後も新型コロナウイルス感染症の影響があると予想されるが、生徒や保護者、地域の方々の期待に応えられるようにチーム泉川で教育活動に向き合っていきたい。

(2) 意見・感想

ア できる限り学校で行われる行事に参加し、中学生を理解しようと努めている。まちづくり専門委員会で生徒と話し合うことをいつも楽しみにしています。学校や地域のことを考えて前向きに話し合う姿に感心させられている。

イ 学力向上について、生徒が実感しているほど教職員や保護者の評価が伸びていないのは、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思う。来年度は、学力向上を重点課題としてとらえ、PTAと協力しながら課題の克服に努めてもらいたい。

ウ 「大好き泉川の日」や「あいロード美化活動」など、地域と協働して行う活動が定着し、地域とのつながりが感じられてとても良い。中学生のボランティア活動への参加も昨年度よりも増えている。今後も継続してもらいたい。

エ ボランティア活動に中学生が意欲的に参加していると保護者が感じてもらえているのは良かった。地域が学校に関わっていることに無関心であってはいけない。学校と地域、保護者が三位一体となってコミュニティ・スクールを進めるためにも保護者の理解と協力がより一層必要だと感じる。

オ 教職員の評価はできていないと感じる生徒が数人いると低く評価しがちなのではないか。多くの生徒は意欲的に活動しているし、あいさつなどもしっかりできている。数年前に比べて生徒の成長を感じるので、今行っている活動をしっかり今後へとつなげてほしい。

カ 現在のボランティア活動は、地域の大人が準備したものに中学生が参加している。今後は生徒が考え、活動する中に地域が協力するという形へと進展していかなければならない。子どもは失敗しても乗り越えていくたくましさを身に付けることが大切だと思う。

キ 環境教育推進事業の訪問資料や発表はよくまとめられていて素晴らしかった。

ク 今回の評価では、欠席する生徒や家庭の問題が見えてこないが、本人や保護者との関係づくりは今後も大切にしてもらいたい。